2013 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

T．Y．　英語英文学科・３年次

Ⅰ．　留学レポート

①　協定留学を目指した理由

大学に入る前から英語が好きでずっと留学したいと思っていたからです。なのでこの同志社女子大学に入学すると決まった時から絶対行こうと決めていました。１回生から協定留学の説明会には何回も行っていました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学を目指して出願するまではとりあえず TOEFL の点数が必要だったので TOEFL に向けて毎日勉強していました。単語帳を買って英単語を覚えたり、友達と TOEFL の speaking パートを一緒に練習したり、ネットで英語の動画を探して見るなどいろいろなことをしていました。また TOEFL の点数を取るのが難しくて出願するまでに合計で５回も TOEFL を受けました。笑　また夏休みには English Camp に参加してみっちり英語を勉強しました。

③　留学決定から出発までの準備期間

あまり英語の勉強はしていませんでしたがハリーポッターの本一冊を英語で出発するまでに読み終えたり、海外ドラマにはまってずっと見ていました。ビザの手続きはカナダの留学舎さんにお願いしたので必要な資料を送るだけでした。しかしカナダの移民局が急遽フィリピンに移動したとかで提出する書類が増えたりばたばたしたのを覚えています。

④　現地到着後

空港からはピックアップを頼んでいたので日本人の運転手さんが空港で待っていてくれました。空港でビザを受け取るときに１２月までビザが必要だったのに１１月までしかもらえず焦りました。また運転手さんがバンクーバーでの交通手段を教えてくれて translink というバス、スカイトレイン、シーバスが乗れる回数券を空港で買いました。ホストファミリーの家についてからはたくさん持っていったお土産を渡したり子供たちと一緒に遊んだりしました。次の日が日曜日で学校は月曜日からだったので日曜日にホストマザーが学校までの行き方を実際にバスとスカイトレインに乗って教えてくれました。月曜日にオリエンテーションがありそこでどのクラスに入るかのプレイスメンテストをうけました。このテストが同女の授業でやっていたのと同じものだったので安心しました。この日に学校に入る子達と一緒にオリエンテーションを受けこの日にできた韓国人の一番最初の友達とは今でも連絡をとるほど仲良くなりました。この日は学校に着いてから最初に保険の書類とパスポートなどを見せるので準備しておいたほうがいいです。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設、環境について

学校はバンクーバーのダウンタウンの真ん中にあるので駅も近くショッピングしたりするのにも便利なところにありました。同じビルの中には日本食のレストランもありました。

教室は１０人から１５人くらいが入れる大きさの教室でパソコンルームもありました。ラウンジでは休憩時間にみんなでしゃべったり毎週金曜日の昼ごはんの時間に卒業セレモニーをしました。バンクーバーのダウンタウンはそんなに大きくないですが都市と自然が融合した町でとてもきれいでした。ショッピングのできる通りやレストランのたくさんある通り、ゲイストリートもありました。また、とても大きな公園とビーチがあり海が大好きなので事あるごとにビーチに行っていました。日本食のレストランもたくさんあったし韓国のマーケットや中国のマーケットがありそこでは日本食も手に入れることができました。

◆授業内容、課題、試験

語学研修期間では絶対とらなければいけないUFCクラスとその前にGeneral Englishをうけました。General English では４つの skill（reading, listening, speaking, writing）をまんべんなくゲームをしたりして学びました。あまり宿題もなく授業を楽しんでうける、といった形でした。また授業が毎日午前中に終わっていたので友達と遊んだりご飯を食べにいったり自由な時間がすごくたくさんありました。先生によって違いましたが私のクラスは毎週月曜日に小テストがありました。UFC クラスはふたつのタームに分けられていて最初は TOEFL/IELTS と writing のクラス、二つ目はプレゼンのしかたやエッセイの書き方を習う大学の準備をするコースをうけました。最初 IELTS クラスになった時は IELTS の問題を見たこともなかったし、このクラスはどのレベルの生徒でもはいれたので一番上のレベルの生徒と一緒に受けることになりとってもつらかったです。授業を受けている間は放心状態で、逃げ出したかったです。授業の後は辛すぎて友達にずっと弱音を言っていました。このクラスは TOEFL にかえることもできたのですぐ TOEFL クラスに移りました。この授業もレベルの高い生徒と一緒に受けましたが馴染みのあったぶん楽でした。またこのクラスは先生がとっても面白くまた生徒同士も仲がよかったのでこのクラスが大好きでした。この授業では毎日 listening と reading を解く課題がありました。２ターム目の大学準備クラスになってからは実際の大学の授業のビデオを見ながらノートを取る練習をしたり、エッセイの書き方を習ったりプレゼンのしかたを学びました。ほぼ毎週プレゼンをしなければならなかったので合計で７，８回くらいプレゼンをしました。プレゼンの内容は先生が大学生だった時に使っていたたくさんの教科書の中からトピックが選べたのでもっぱら心理学のトピックを選んでプレゼンをしていました。あと、最後の大きなエッセイもあり、そこでも心理学を選びました。動物の好きな友達は動物についてプレゼンもエッセイもしていました。このクラスはずっとメンバーが変わらなかったので毎週どこかにいったりしてとっても仲良しでした！またこのクラスでは中間と最終試験があり、それに落ちると Mount Allison 大学に行けないといわれたので焦りました。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設、環境について

大学はSackvilleというとっても田舎にあり服などを買う場所はなくスーパーと薬局くらいしかありませんでした。大学はきれいでこじんまりとしていてかわいかったです。カナダ

人の子たちはけっこう授業中にノートパソコンを使ってノートを取っていました。また、日本人がとても多く、関西学院からくる子たちは固まって日本語をしゃべっていたのでミールホールなどに行くとあまりカナダにいるという気がしなかったです。関西学院大学の子たちのほかにも Mount Allison に４年間通う日本人の子たちもたくさんいました。

◆履修科目

５クラスまで取れるのですが international の生徒にはつらいと聞いたので３教科しかとりませんでした。しかし、３教科くらいがちょうどいいと思います。

・CANA2001　Canada and the Modern Age

カナダの大学にせっかく来ているんだから、ということで履修しました。カナダのあらゆること（先住民の問題、環境問題、独立問題、政治など）を学びました。

・MUSC2011 Survey of Western Music

クラシックの音楽が好きだったので履修しました。楽器の種類や音楽の時代、歴史にそって有名な作曲家や曲を学びました。

・PSYC1001 Introduction to Psychology I

語学研修のときに psychology のトピックでプレゼンをしたときに心理学に興味を持ったので履修しました。語学研修のときにみた先生の教科書と内容がほぼ同じ教科書だったのでびっくりしました。心理学の実験の仕方から感覚器官のつくり、memory や consciousness、learning などを学びました。

◆授業、レポート、定期試験

定期試験では international の生徒は申し込めば辞書を使ったり時間を延長することができるので利用しました。

・CANA2001 Canada and the Modern Age

この授業は１回のレクチャーと１回のチュートリアルでした。毎週トピックが決まっていてそれについてのレクチャーと reading を読んで要約とそれについての意見を書く reading response が毎週ありました。また、毎週のチュートリアルで１つ３人のグループがその reading のトピックについてプレゼンをしました。Reading が難しくて最初のほうは全然授業についていけませんでした。なので教授にメールで助けてもらえないか聞いてその授業を前取っていた人を自分のチューターとして紹介してもらいました。$12.5/hour でお金がかかりましたがそのぶん reading response を手伝ってもらったり意見を言い合ったりしてこの授業の理解度がより深まったと思います。中間と final がありましたがどちらも習ったことから自分の意見を書くものでした。Final では２問を複数のオプションから選んで 1000 字づつ書く問題でした。Reading response で毎週やっていたことだったのでしっかり自分の意見があれば書けると思います。

・MUSC2011 Survey of Western Music

この授業は週３回５０分で１０人以下の少人数のクラスだったので先生ととても親しくなれました。音楽の基礎から様々な楽器、歴史ごとの有名な作曲家などを学びました。クラ

シックが好きだったので知っていることも多く、また先生がとっても優しくて楽しい授業でした。楽器の種類を習った時に先生がいろんな楽器を持ってきてくれて自分もいろいろ触れたので楽しかったです。毎週１回オンラインで授業で習ったことについてや曲について書く課題がありました。また、コンサートに２回行きそのコンサートについてのレポートもありました。試験は中間と final がありどちらも曲を聴いてその題名、年代、作曲家などをこたえる問題がありました。問題数は多くなかったです。

・PSYC1001 Introduction to Psychology

この授業は週３回５０分のレクチャー形式のクラスでした。先生がフランス語を第一言語としている人だったので最初の方は英語が聞き取りづらかったです。また、スライドを見てノートを取るのですが、スライドをかえるのがすごく早くてノートをとるので精いっぱいでした。一回の授業で進むスピードがとても速く、テストは覚えることが多くて大変でした。また内容がニューロンや脳など生物でも習っているんじゃないかと思うほど思っていた心理学とは違ったものでした。後半は learning や memory など心理学らしい授業でした。しかし、もとから心理学に興味があったので内容はおもしろかったです。課題は一回のレポートと心理学の実験に参加することでした。実験は自分で選ぶことができ、私は性格の調査のアンケートを３回くらい受けました。試験は中間と final がありどちらもすごいたくさん覚えることがあり落とすんじゃないかと思うくらい大変でした。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

Mount Allison にいるときに International Choir というクラブに入っていました。いろんな国の歌を習うというクラブで日本の歌や中国の歌などを練習しました。学期末の coffee house ではみんなの前でみんなで中国の伝統歌を披露しました。このクラブでは歌の練習の後にお菓子を食べたりジュースを飲んだりしながらしゃべる時間があり、ピアノを弾きながら他の国の曲を教えてもらったりしました。とても人数が少なくみんな仲良しで楽しかったです。また menter ship プログラムというクラブにも参加しました。このクラブは international の１回生の生徒と上級生でペアを組み旅行に行ったりランチに行ったりするクラブです。私は menter の家に行って映画を一緒に見たりランチを食べに行ったりしました。

⑧　現地での住まい

バンクーバーにいるときはイタリア人の家族の家にホームステイをしました。下の階に留学生、上の階に家族が住んでいたので会いたくないときは楽でした。ご飯は朝はパンやシリアルがあったので自分で用意して食べ、昼はホストマザーがサンドイッチなどを作ってくれました。夜だけホストファミリーと一緒に食べる形だったので上の階に行き一緒に食べました。しかしご飯がとても少なくまたほぼ毎日パスタという食生活で途中からご飯を一緒に食べなくなり、ほぼ毎日外食していました。家から学校へはバスで 35 分でした。私のほかにホームステイ先にブラジル人の女の子がいました。Mount Allison にいるときはほとんどの生徒がたくさんある寮のひとつに住んでいました。私は一人部屋ばかりの小さな

Thorton という寮に住んでいました。人が少ないのでうるさくなかったのでよかったです。ただ wi-fi が自分の部屋には全くなかったのとミールホールまで遠かったので不満でした。ミールホールのご飯は途中から飽きてなにを見てもおいしそうに見えなくなりました。なので日本から送ってもらったカップラーメンをよく食べてました。

⑨　長期休暇の過ごし方

バンクーバーでの語学研修が終わったあと２日しかなかったので長期休暇はありませんでした。しかし、バンクーバーにいるときには友達と３泊４日でロッキー山脈のバスツアーに参加したりフェリーで Tofino という海のきれいなところに旅行に行ったり、シアトルに行ったり、また Mount Allison にいる間にもモントリオールに電車で片道１８時間もかけて友達と行ったりしました。Mount Allison での正規の授業が終わった後にはケベックシティに行ったりユーコン準州にオーロラを見に行きました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

一緒に Mount Allison にいった人のなかに４回生の先輩がいたのでその先輩に自分のなりたい職業に内定している先輩の友達を紹介してもらいいろいろ質問したりしていました。あとは、リクナビやマイナビなどに登録して興味のある会社を探していました。しかし、ちょうど final の時期とかぶっていたのであまり就活のことを気にする時間はありませんでした。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはいろいろな国の子と友達になれたこと、その中にはほんとうの親友もできて国が違っても分かり合えることです。バンクーバーにはいろんな国のレストランがあり、友達も韓国の子が多かったので韓国料理を数えきれないほど食べたり、料理してもらったこともいい思い出です。また、バンクーバーに住むことで本当に雄大な自然に触れ合うことができ、バンクーバーから一歩出ればロッキー山脈や tofino でのホエールウォッチング、シアトル、ユーコン準州での犬ぞりなど日本では体験することのできないようなことがいろいろできました。毎日学校が終わったら友達とご飯を食べにいったり、観光地をめぐったり、花火をみたり、ビーチに行って遊んだり湖にハイキングに行ったり登山したり、何気ないことをいろいろな国からきた友達とできたことがほんとうに楽しかったです。花火はバンクーバーにいるうちに合計４回も見に行きました。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

まず UFC クラスが始まってエッセイを書いたときに、文法などは間違ってないけど、おもしろくない、と先生に指摘されたことです。カナダでは考えることがとても重要なので文法などがあっていても中身がない、おもしろくなかったらいいエッセイとは言えないからです。いままでは文法などを気にしていたので違いに驚きまた、考えることの大変さを実感しました。大学にいってからも毎週レポートがあるのですが、自分の意見が重要なのに

自分の意見を考えることができない、ということがあってエッセイを書くのがつらかったです。また、大学に移ったときになかなかカナダ人の友達を作ることができなくて、カナダ人の友達を作らなくてはと最初のころは焦っていました。また、Mount Allison に他の大学から留学に来ていた日本人の子に半年もカナダにいてそのくらいしかしゃべれないんだねと言われたことがすごくつらかったです。自分でもそんなに上手いとは思っていなかったけれど自分なりに頑張っていたのでそういう風に言われたことはつらかったです。また、授業で出される毎週の reading が量も多く難しくて最初のほうはさっぱり授業についていくことができなくて泣きそうでした。また、その授業はカナダ人用でカナダの政治や歴史などを知っていることが前提で進むのでカナダの知識が全くない自分にはとてもつらかったです。授業中の発言もカナダ人の子が何を言っているかわからずグループの発表もカナダ人の子に任す、といった感じで最初のころはほんとにその授業から逃げたかったです。また、ホームステイ先のご飯がほぼ毎日パスタばかりで量も少なく、ランチは友達にそれスナック？といわれるほどだったのでご飯にはずっと不満でした。ホストマザーにそれを伝えることもできず、途中からほぼ毎日外食をしていたので伝えるべきだったなあと思います。外食をしていたし、小さな子供がいたのでその子達と遊ぶのも億劫になり途中からほとんどホストファミリーと会わなくなっていたのでホストファミリーを変えるべきだったのかなあと思います。

③文化・習慣の違いで驚いたこと

ホームステイ先にブラジルから来た女の子と住んでいたのですが、ブラジルではトイレットペーパーをごみ箱に捨てるらしくそれにびっくりしました。ブラジルのトイレは紙を流すとつまるようです。お願いしたらちゃんとトイレに捨ててくれるようになりました。また、サウジアラビア人の子と恋愛の話をしていた時に結婚するまで男の人と付き合ってはいけないらしくて衝撃を受けました。付き合っていても周りに隠し、ばれたらスキャンダルになると言っていました。しかし、結婚が早くその子の友達は高校でみんな結婚しているということもびっくりしました。また大学にいたときにカナダ人の子達はしょっちゅうパーティーに行ってお酒を飲み踊る、という生活をしていて日本の大学生とは違うという感じでしたしパーティーで即席のカップルができいちゃいちゃしていたので下品だなあ、と思っていました。そんなカナダの子達でしたが暇があれば勉強していたのでそこには関心しましたが。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

よかった点は自分の興味のあることを深いところまで学べたことです。学ぶ量が多かったけどそのぶん自分の好奇心を満たすことができたと思います。また比較的少人数のクラスが多く音楽は１０人以下だったので先生に名前を覚えてもらったり学校で会ったらしゃべるなど先生と生徒の距離が近かったと思います。悪かった点は学校にいてなにもすること

がなく、イベントはただ騒いで踊るだけのイベントが多く私はつまらなかったです。またミールホールのご飯がだんだん食べたことのあるものばっかりになっていき、日本食がとても恋しかったです。また、日本人がとても多いことも問題でした。ある友達はそれを嫌がりずっと英語で日本人の子達にしゃべるように言っていました。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

まずパソコンは必需品だと思います。学校では持ち歩くのでなるべく軽くて小さいものがいいと思います。また、洗濯ネットもいると思います。あとは厚手のコートもカナダはとても寒いので役に立ちました。カナダではみんな現金を持ち歩かずカードなのでクレジットカードはコンビニやバスのチケットを買うのにも使うので、便利でした。お金はキャッシュパスポートを持っていったので親からいちいち送金してもらう必要もなく、またほとんどどの ATM でも使えたので使いやすかったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はまんべんなく伸びたと思いますがリスニングとスピーキングがとくに伸びたと思います。TOEFL iBT の点は行く前より 15 点伸びました。バンクーバーにいる時はほとんど日本の友達がいなかったので何日日本語しゃべってないんだろうと思うくらい語学研修期間中は英語を毎日喋っていました。そのおかげで英語を話すことに自信がつきました。そのおかげで道端で会った人などと気軽に会話することができるようになりました。また、友達のおかげで自分の長所も見つけることができました。留学前と後で変わったことはやっぱり自分に自信がついたこと、また、より好奇心旺盛になったと思います。また、留学に行く前はカナダはアメリカと似たような国という印象だったけどその印象が変わりカナダが大好きになりました。

④ これから留学しようと思っている後輩へのアドバイス

まず TOEFL の点が取れなくて諦めようと思っても留学に行きたいという気持ちがあれば取れる努力をすること！気持ちがあればなんでも成し遂げられます。また、留学に行こうか迷っているようであればとりあえずチャレンジしてみるのもいいと思います。留学では日本では絶対に経験のできないようなことがたくさんできるし、それが人を成長させると思うので、ちょっとでも行きたい気持ちがあればまずやってみるのもいいことだと思います。留学して後悔はしないと思うし、留学した後に絶対行ってよかったなあ、と思うと思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標、夢

今後は英語を使えるグランドスタッフになりたいと思っているのでまずグランドスタッフになって、そのあと海外の空港で働けたらいいなあ、と思っています。とにかく海外とつながりのある仕事がしたいです。また、海外にいるいろんな国の友達にも会いに行きたいです！

2013 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

７月にみんなでバンクーバーからロッキー山脈の３泊４日のバスツアーに行ったときに。景色がとーーーーーーーーーーっても綺麗でした！！！！！！

サウジアラビア、韓国、日本の友達と！
みんなで学校が終わった後にノースバンクーバーにある Grouse Mountain に登りに行きました。２時間くらいで頂上まで行けたけどきつかったです。仲良しの中国人、韓国人、日本人のクラスメートと！

バンクーバーで有名な English Bay に台湾人の親友 Yu-Hsin と韓国人 Hyunwoo と日本食を食べた後に行った時に。ここは海がすごくきれいで大好きな場所です！！！！！！！！

K．Y．英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

小学生の頃、私にはブラジル人の友達がいました。大きく澄んだ瞳、長い睫、まるでお人形さんのような可愛さ。そして、私には理解不能な言葉で交わされる兄弟同士の会話。まるで音楽を聞いているような不思議な魅力を感じたものです。その後、自らすすんで英会話教室に行くなど国際交流に興味を持ち始めました。留学を真剣に考え始めたのは中学 3 年生の頃です。中学・高校時代、長期休暇を使い語学研修に行きたいという思いがありましたが、部活と勉強が忙しく願いは叶いませんでした。高校は英語科志望でしたが、そのレベルに届かずとても悔しい思いをしました。その時、大学生になったら絶対に長期留学をするっ！と強く決意しました。大学 1 年生の春休み、同志社女子大学の海外研修プログラムに参加させていただき、1ヶ月間、イギリス、ノーリッジに行きました。私にとって初めての海外、そして語学学校での勉強でした。最初のうちは不安がたくさんありましたが、心優しいホストファミリー、先生方、また友達との出会い、日本に居たのでは体験することのできない異文化を経験し、海外への長期留学の夢が一挙に高まっていったのでした。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

実際に英語学習を含め出願の準備を始めたのは、イギリス海外研修帰国後でした。留学を目指すには TOEFL-iBT を受け、出願の為の基準点に到達しなくてはいけないのですが、まず何の対策もせず 4 月頃にお試し受験をしました。が、その結果は惨憺たるもので、もうダメなのではないかと早々に感じていました。それでも、このとてつもなく低い点数をバネに夏休みは実家で英語学習に専念しました。参考書を何冊か買うのではなく、一冊だけを選んで、それを何度も何度も解きました。日本語の解説ではなく、英語の解説があるものが良いと思います。なぜなら、本番は（留学してからもそうですが）日本語には一切頼れないからです。英語に慣れるというのが一番の英語力アップに繋がると思います。私は留学テスト対策指導をメインに取り扱っている USA club Education Center という会社の教材を用いました。この教材には、TOEFL の問題というより、TOEFL に出る傾向の内容に関する Reading や Listening が掲載されています。例えば、Reading ではアメリカの歴史、Listening では大学内での友人同士の会話や教授との会話などです。実際に TOEFL の予想問題は解かずに、ただ読み続ける、聴き続けるという感じでしたが、私の英語力は確実にアップしました。Speaking と Writing はパソコン上で講義を見ることができ、そちらもしっかり対策できました。使っていた教材はこの１つだけでしたが、夏休みの 1 ヶ月程で、TOEFL のスコアを 20 点以上も伸ばすことができました。正直、練習問題を１度も解かなかったので、不安になる時もありましたが、振り返ってみると、新しい参考書に手を出すよりも同じ問題をひたすら解いていたのが良い結果に結びついたのだと思います。

また、私は洋画を見るのが大好きなので、以前に何回も見て内容を熟知しているものを、英語字幕で見るということもしていました。

③　留学決定から出発までの準備期間

留学が決定したのは 12 月頃で、決まってからは留学の準備と大学のテスト勉強に追われていました。ですから、机に向かっての語学勉強はあまりしていませんでした。しかし、好きな洋画や海外ドラマは時間がある時に見ていました。ビザ申請手続きは、学校から勧めていただいたプログラムを使い、ビザ取得のサポートをしていただきました。料金はかかりますが、自分でビザを取得するよりも信頼性はあり、なにかと忙しい時期でしたのでとても心強かったです。心配事が少し軽減されたといった感じです。大学では留学生全員が集まり数回のオリエンテーションが行われました。ここでは、他の留学生との交流があり、留学に向けた準備や勉強、情報交換をしたりと、留学への、そして同志社女子大学の代表としての意識を高めることができました。当時、私は、アルバイトをしていませんでしたので、春休みは実家に帰り準備を始めました。具体的には、コンタクトを使用していますので、眼科に事情を話しコンタクトレンズを 1 年分いただいたり、歯医者に検診に行ったり、またカナダは寒いと聞いていましたので防寒着を購入したりしました。夏服は、カナダで安く買えることを信じ、あまり持って行きませんでしたが、これは大きな失敗でした。消費税が日本よりもはるかに高く、洋服も安くはありません。いつも出たとこ勝負の私は、前もって荷造りをせず、出発前日から当日の朝まで、中身を出したり入れたり眺めたり・・・慌てふためく私の姿を見て家族に心配されたり大笑いされながらの慌ただしい旅立ちとなりました。

④　現地到着後

トロント到着後、空港に迎えに来て下さったエージェンシーの方がホームステイ先まで送り届けてくれました。トロントには世界中から多くの留学生が集まります。ですから、空港には他のエージェンシーの方が大勢いて自分の担当を探しだすのにとても苦労しました。空港からホームステイ先までは車で 30～40 分くらいかかりました。土曜日の夜に到着し月曜日から学校が始まる予定でしたので、到着した次の日曜日は予行練習で学校まで行ってみることにしました。マイナス 15℃、おまけに大雪の中、方向音痴の私は語学学校を見つけるのに 3 時間もかかり（もちろん何人もの方に道を尋ねましたが、彼らは知っているようなふりをして堂々と間違った方向を教えるのです。）不安で泣きそうになりました。そして、自分自身の方向音痴っぷりをあらためて認識しとてもショックでした。オリエンテーション当日は前日あれほど場所の予習をしたにもかかわらず大胆にも遅刻。しかし他の大勢の生徒も迷って来ておりちょっと安心しました。当日は、クラス分けテストを受けたり、学校の規則、周辺の情報などを教えていただきました。午後はエージェンシーの方ともオリエンテーションがあり、そちらも参加しました。そこでは、口座の開設、携帯電話の購入やレンタル方法など留学生なら誰もが疑問に思うことを教えていただきました。また、街の中で危ない場所を伝えられ、ここには絶対に行かないでと念を押されました。

安全とはいえカナダはやはり日本とは違うのだということを改めて学習しました。ちなみに私はキャッシュパスポートというものとクレジットカードを日本で作って持って行きましたので銀行口座の開設はしませんでした。携帯電話は日本の携帯とカナダの携帯を使い分けていました。カナダの携帯は「けーたいや」という名前の会社で日本でプリペイドの携帯を買うことができます。基本的には日本の携帯を Wi-Fi を通して使いましたが、駅など Wi-Fi がなかなか使えないところで友達と待ち合わせをする場合には、カナダの携帯があると便利です。またメトロパスという定期を買いました。これはトロント市内のバス、地下鉄、ストリートカー（路面電車）乗り放題といったとても便利なもので、値段は 1 ヶ月約 130 ドル。大抵の学生はこれを持っていました。メトロパスはエージェンシーで安く手に入れることが可能です。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

トロントの PLI は、市内で一番大きな駅のすぐ近くにあります。学校へは駅と繋がっているホテル内を通り、雨の日でも全く濡れずに行くことができます。大体、駅から 2～3 分程です。学校が入っているビルの 1 階にはカフェがあり（飲み物、ドーナッツなどがとても安いです）私はそこをよく利用していました。しかし頻繁に利用していますと、取り返しのつかないことになるのでご注意を。体型が変わり、体が重たくなります。また、学校の近くにとても広いフードコートがありますので、昼食を持ってこなくても困ることはありません。PLI は 2 フロアあり、比較的教室数もあり、生徒も午前と午後に分かれていますので大きな学校という印象があります。建物はとてもきれいでした。しかし、トイレ使用後にたまに流さない人がおり、とても不快な思いをした記憶があります。トイレの個室に鍵をかけない生徒もいました。いろんな国から学生が集まっており、これぞまさに国際交流の場！という感じです。PLI は、校内でそれぞれの母語を喋ることにストイックなので授業中はもちろんのこと休み時間など校内で母語を喋っている生徒は注意されます。これは、私にとってはとても英語を喋りやすい、友達を作りやすい環境でした。中にはバレないように母語を使い話している子もいましたが、これは自分のやる気次第だなと思います。

◆授業内容、課題、試験

・Intensive English

私は 3 月から約 3 ヶ月間、Intensive English というコースを取りました。午前中 2 クラス、午後 1 クラスが私のスケジュールでした。午前中は文法、Reading などを中心に全てを学べます。クラスでの Discussion は当たり前。週に何回か Writing の宿題もあります。宿題は毎日ありましたが、それほど多くはなく、余裕を持って取り組めていました。しかし、はじめの 1～2 週間は授業についていけず、自分の英語が相手に通じない、相手が何を言っているのか理解できない中、いきいきと自由に発言している皆の様子に焦りを感じ、落ち込む毎日でした。そんな私を救いあげてくれたのはスペインと韓国の友達でした。彼らが励ましてくれたことにより、全てをプラスにして明るい気持ちで毎日楽しく授業に参加で

きるようになりました。とにかく何でもいいから喋ってみる、という意気込みが大事です。午後の授業は、初めは Listening& Speaking の授業を取りました。これは、映画を見ながら、Discussion をして Listening, Speaking を伸ばすという内容です。映画好きな私にはもってこいの授業でした。午後のクラスは 5 週間に 1 回、アンケートにより変えることができましたので、このクラスの他に、Drama（演劇）や Reading のクラスなども取っていました。

・UFC

5 月からは UFC（大学準備コース）が始まりました。UFC は前半と後半でそれぞれ 8 週間に分かれていて、前半は大学の授業対策のようなものなのですが、UFC が始まった当初から私のやる気が急速に失われていきました。その理由は、以前まで受講していた **Intensive English** のクラスが最高に楽しかったことと、UFC を受けている大半の学生が日本人でしたので、授業中の国際交流が一気に少なくなってしまったことです。例えば、授業中、各国の文化を話す場があったとしても、クラスの大半が日本人であれば、ひとりが喋ったら終了になってしまいます。しかし、この授業は必須でしたので頑張ろうと前向きに取り組みました。授業の内容、宿題は以前のクラスと比べ物にならないくらい大変でした。まず、予習の Reading の量が多すぎて終わりません。でも読まないと、次の日の授業についていけません。また内容が難しいので、読んでも理解するのにとても時間がかかります。宿題は予習の他にも Writing、Presentation など盛りだくさんでした。授業の仕方は大学の講義に近い感じなので、良い練習になると思います。このクラスでの時間は長く濃かったので、クラスメートと先生と一緒にご飯を食べに行ったりということもありました。後半の 8 週間は、TOEFL か IELTS のどちらかが選べます。初めは、IELTS を取っていましたが、机に向かった勉強が 8 割といった感じで、せっかく語学学校に来ているのですから、もっと Discussion が多い授業を取り、自分の力を伸ばしたいと考え、先生と相談させていただき、初めの 3 ヶ月取っていた Intensive English のクラスに変えていただきました。このクラスは仲の良い友達が大集合で、先生もとても良い方でしたので、The Best Class Ever といった感じでした。大切な思い出のクラスです。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大都市のトロントから大学に移動した時は、目の前に広がる風景があまりにも田舎過ぎて驚きました。田舎ということは頭の中では理解し知ってはいましたが、本当にびっくりするほどのど田舎なのです。ショッピングモールまではモンクトンという町まで出なくてはならず車で 40 分ほどかかります。大学付近には、薬局やスーパーマーケットなど必要最低限の物を揃えることのできるお店はあります。勉強にはとても適した環境なのだと思います。大学内には Wi-fi が通っているので大変便利でした。

◆履修科目

私が履修したのは、3 科目でした。本来は 5 科目まで取れるのですが、科目を少なくして 3

科目をしっかりと勉強したいと考えたからです。

・ENGL1201E

この授業は、イギリス文学を主にアメリカ文学も学びます。とにかくハード。先生は他の英文学の先生より厳しく（英文学の先生は独特な感じがします）レポートの量がとても多かったです。毎週出す Free Writing があります。これは次の週に授業でやる内容を自分で予習し、調べてレポートを書きます。それに加え、大きな Essay の提出も 3 週間に 1 回ほどあります。私は、Writing を得意としていました。同志社女子大学の AES のクラスでも語学学校でもいい評価を頂いておりました。しかし、English の教授からはとても低い点数を何回も付けられました。自分の実力の無さに泣くことも多かったです。しかし、教授とのコンタクトを怠ることなく、何度も研究室にまで会いに行き、サポートをしていただきました。超ハードな授業でしたが、自分をとても成長させました。

・DRAM1701

この授業は、演劇に関する授業で、自分が英文学を学んでいるということと、同志社女子大学の SP にとても関心がありましたので選びました。演劇（ギリシャの頃からの）の歴史を勉強したり、シェイクスピアやその他たくさんの文学にも触れました。古英語を勉強するというのは容易なことではありませんが授業の内容と教授が大好きでしたので毎回とても楽しめました。また、試験がない代わりにプロジェクトがあり、私はハムレットを他のグループの方と一緒に演じました。この授業を取っている生徒の大半が、演劇を学習したことのある、又は現在進行形でしている人ばかりでしたので、最初のうちはついて行けるのか不安でしたが、クラスに友達を作ればこっちのものです。皆とても優しく、彼らには随分助けて貰いました。このクラスもレポートが多いクラスでしたが、たまに English のクラスとの類似点がありましたのでその分は楽でした。しかし、文学は数学のように答えがひとつではなく、答えがないものを自分で研究するものですから、本当に難しい学問だと改めて実感いたしました。

・MUSC2011

音楽のクラスでは主に音楽史を学びました。1 歳の頃から音楽教室に通っていた私には本当に楽しいクラスで予習復習は苦ではありませんでした。音楽の授業は簡単そうというイメージがあると思いますが、これが意外と難しいのです。簡単に使っている用語でさえ、英語にしたら全く分からず、まずは単語調べからのスタートでした。また暗記が多く、試験では、曲を聞いて作曲者、年代、国、時代背景などを答える問題もあり苦労しました。レポート提出は、コンサートに行き（大学にコンサートホールがあります）それについてレポートを書きます。勿論これは感想文ではなく、問われるのは専門的知識です。3 科目全て、頻繁に研究室へ通いつめ教授と話をさせていただきました。こちらが意欲を見せると、教授も親身になり全力でサポートしてくださいます。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブなど一定のものには所属していませんでしたが、毎週ジムに行き、Zumba を踊って

いました。ジムでは、たくさんのアクティビティーが毎日行われており生徒なら誰でも参加可能です。Zumba class は週 2 回 1 時間ずつあり、この 1 時間はノンストップで踊り続けます。語学学校で、南米の友達が多かった私は、彼らの影響でラテンミュージックが大好きになり、この Zumba class は最高でした。大学にはたくさんの行事がありますので、授業の空き時間を利用して積極的に参加し、勉強三昧の毎日から自分を解放してあげてください。

⑧　現地での住まい

〈ホームステイ〉トロントでの半年はホストファミリーにお世話になりました。私は彼らを本当の家族のように思っておりましたし、ホストマザー、ファーザーも私のことを実の娘のように思っていてくれました。彼らには何でも話せます。学校の授業、友達関係、恋愛、全て親身になって聞いてくれました。ファミリーはギリシャ人なので、伝統的なギリシャ料理を作ってくださり、毎日のご飯がとても楽しみでした。ホストマザーはお菓子作りも大好きで、私も一緒にお手伝いしました。通学時間は 30 分ほどで、バスと電車を使います。近くにはグリークタウンもあり、学校からグリークタウンを歩き買い物をしながら家に帰ったこともありました。ホストファミリーのちいさな可愛いお孫さんもしょっちゅう家に来ていましたので、よく一緒に遊びました（遊んで貰いました)。ホストファミリーには、帰国する前にも会いに行き、今でも連絡を取り合っています。良いご家族に恵まれました。最高のホストファミリーでした。

〈寮〉大学に移ると、寮生活になります。日本でも 2 年間寮生活でしたので全く抵抗はありませんでした。私は大学内で一番大きいと言われている寮に入りました。ルームメイトは日本人でしたが、彼女とは英語で話したり、日本語で話したりとストレスが溜まらないようにお互い使い分けていましたし、とてもいい子なので部屋は明るく楽しかったです。常にお互いの友達が来ていて賑やかでした。しかし、Party residence と呼ばれていて、寮の中がとにかくうるさい。3 階 4 階はありえない程のうるささでした。クラブにいるのではないかと思うほど大音量の音楽、お酒の匂いに喚き声。礼儀正しい日本人からすると彼らは常識はずれの集団で留学生など勉強に集中したい人には大変だと思います。しかし、平日は夜の 10 時からは Quiet hour と言い、騒ぎまくっていた人達が一斉に神隠しにあったかのように寮内はシーンと静まり返ります。今度はスリッパ 1 つの音でも指摘されるのです。10 時まで遊んで騒いで、それ以降は勉強か、睡眠。これがカナディアンなのです。こんな状態に慣れるのは大変ですが、楽しんだもの勝ちだと思います。歌が大好きな私は、自分の部屋でまわりを気にせず大声を張り上げ歌っていました。

⑨　長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでしたが、休日にフレンチカナダ（ケベック州のケベック、モントリオール、オタワ）に行ったり、ナイアガラの滝を見に行ったりしました。フレンチカナダはトロントから、バスで 5～6 時間。ここは、フランス語圏なので、第一言語がフランス語です。まるで英語圏にいるような感じではなくなります。街もか

わいらしく、まさにヨーロッパという建物ばかりで、馬車も走っています。すこし街から外れたところで、馬車の音が、パカパカっと聞こえた時には、もう気分はクリスマスキャロル。この馬車、いまは観光として有名なのですが、噂では 1 回乗るのに 80 ドル、詳しくはわかりませんけど約、8,000 円です。なかでもいちばん印象に残った街は、オールドケベック。街全体が本当に可愛いです。街の人は、とても気さくですぐに仲良くなれます。本当に素敵な街でした。大学に行ってからは、PEI（プリンスエドワード島）やハリファックスにも行くことができました。また日本に帰る前に、単身、ニューヨークへ小旅行。年末ということで、タイムズスクエアは人、人、人・・・人のうねり、そう、ちょうど京都の祇園祭のようでした。トロント到着後はひどい方向音痴だった私ですが、ニューヨークでは 1 度も迷うことがありませんでした。これも、この留学で培われた成果なのだと思います。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

取り組む予定はありませんでした。留学中は、留学に専念しようと思っていたのです。しかしある日、これだ！と思う会社を見つけてしまいました。履歴書、自己ＰＲの締切が早かったので（カナダにいる間でした）そこにだけは送ろうとバタバタと準備にとりかかりました。スーツは母に頼み急いで日本から送って貰いました。家族にはつくづく世話になりました。日本の証明写真のサイズは小さすぎて、カナダの写真屋さんでは対応していません。（ちなみに、カナダでは履歴書に証明写真を貼りません。理由は差別になるからだそうです。）雨の中、写真を撮ってくれそうなところを 3 件走りまわり、結局、薬局で撮っていただきましたが、やはり少し大きめの写真になってしまいました。質もあまり良くありません。カナダに居ての日本の就活はえらく苦労するのだなとひしひしと感じました。日本を出国する前にスーツ姿でびしっ！と美しい証明写真を撮っておき、それを何枚か持参して行くのもお守りがわりで良いと思います。ここぞという時に役に立つかもしれません。実際、学校の授業に追われて就活をするのは難しいと思いますが、もしものことを考えていくのも大事。備えあれば憂いなしです。自分の大切な未来がかかっていますからね。くれぐれも後悔しないように。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

何よりも、世界中に友達が出来たことです。毎日、勉強と両立させながら彼らと遊んでいました。特に語学学校の頃は、コンサート（Rihanna のコンサートが 38 ドルという低価格！）、映画（5 ドルで新作映画が観れるんですよ）、ビーチ、買い物、食事、パーティーに行ったりと盛り沢山。毎週行っていたラテン系のパーティーがあり、そこのマスターやスタッフと友達になり、誕生日会やお別れ会を開いてくれました。一番楽しかったのは、友達と一緒にいたことですが、皆でパーティーに行ってラテンミュージックを聴き、ダンスを教えて貰い、一緒に踊ったり話したり、Crazy になったことが思い出として強

く残っています。私の誕生日会もとても盛大で、友達全員に祝っていただき、そこで更に新しく友達ができたりと、100 人以上の方が祝ってくれたのではないでしょうか。おめでとうと言われ抱きしめられるのがこんなにも嬉しいことなのだと今まで知りませんでした。とても感激しました。ブラジル人の親友とは、ほとんどの時間一緒にいて、他の友達や先生から、2 人の友情は本当に強いね、留学生同志でここまで仲良くなる子達は未だかつて見たことないと言われました。彼女とは、この先、一生親友でいるんだろうと思います。クラスでも、私はジャパニーズブラジリアンと言われ、日本に居る時よりもっとオープンな性格になったと思います。友達と笑ったり、いっぱい泣いたり、怒鳴り合うほどの大喧嘩をしたり、また恋愛をしたり。毎日毎日、新しい発見がどんどん積み重なって、この 1 年間での出来事全てが私にとってかけがえのない思い出となりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

やはり勉強です。特に大学に行ってからはほとんど勉強、課題に追われていました。朝の 3 時、4 時まで起きているのはあたりまえ。試験前は睡眠すらしていません。しかしこの苦労は、同志社女子大学の代表に選ばれたからこそ味わうことができたのです。イギリスでの１ヶ月の語学研修もとても勉強になりましたが、この１年こそが本当の留学だったのだな、としみじみ思いました。語学学校での 6 ヶ月で、英語にはかなり自信がついたと思っていましたが、大学に入学し、カナディアンの中に自分がひとりポツンと入ると、彼らの会話のスピードは早過ぎ、語学学校との大きな違いに気づかされました。また、気温も日本より圧倒的に低く、苦労しました。8 月でも夜になると 10℃になるのです。また 12 月中旬はマイナス 25℃、体感気温はマイナス 30℃以下というありえない温度で、寒さを通り越し体中が痛かったです。体調を崩しやすい私は、計 5 回風邪をひき、全て 38℃越え。日本とは違い、簡単に病院に行ける環境ではなかったのがつらかったです。そして、何よりもつらかったことは親知らずを抜き、隣の歯の神経も抜いたことです。私の親知らずは完全に斜めになっていて隣の歯に被っており、それはもう大手術でした。ホストファミリーに紹介していただいた歯医者さんはすばらしいドクターで助かりましたが、こちらに来る前にも日本の歯医者さんでしっかり診察を受けて来たのに何で私だけがこんな目に遭わなければならないのだろうと何度も思いました。歯茎を切ったジャキという音と、歯を抜くギシギシという音は一生忘れません。そして高額な治療費。保険が使えず全て自己負担になるのです。トロントでは、どこの歯医者に行っても値段は一律。神経抜くのに 500 ドル、抜歯に 300 ドル、その他治療、初診料など合わせ、ざっと 10 万円。友達みんなから、あなたの留学は波乱万丈ねっ！とずっと言われていましたが、ほんと、私以上に波乱万丈な留学生はいないと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お菓子が甘過ぎます。カラフルで可愛くておまけに安いので思わず手が伸びてしまいますが、甘い物が大好きな私でも、カナダのケーキやドーナッツは甘過ぎると思いました。また、日本で 37．8℃の熱が出たら高熱と見なしますがカナダでは違います。ホストファミリ

一に熱が出たーっ！と泣きついたら、これくらいじゃまだまだ！大丈夫よ！と軽く言われ、実際しんどくてフラフラしている私にはその言葉が衝撃的でした。彼らにとって 38．5℃などからが熱だそうです（当たり前ですよね）。ラテン系の人も多いカナダですが、その文化には本当に驚きました。キスは当たり前、女の子には誰にでも綺麗だの、可愛いだの、天使だの言います。でも、これは挨拶なのですね。（もちろん本気で好きになったら全力直球ですが）セックスに関しても日本人より考え方がとても軽いです。曖昧な日本人の態度は、相手には Yes と受け取られてしまうようです。相手の積極的過ぎる態度に流されず、No ならきっぱり・ぱっきり No と言わなくてはいけません。いくつかの国では、お互い好きになって付き合う時に、日本のように付き合おう！という会話が無いのです。言葉はいらないみたいですよ、私には理解できませんが。なぜなら、日本で同じことをしたら（好き、愛してる、と言ってキスはするのに、付き合おう！とは言わない）完全に遊び相手なのだなと思うからです。逆に日本人はお互いに察する文化で曖昧、言葉ではあまり主張しない国民性ですが、このことについては白黒はっきりつけるのだなと思いました。また、日本人は踊りよりカラオケですが、ラテン系の人々にとってダンスは生活の一部。素直にダンスを楽しんでいる彼らの姿に惹かれました。それから、カナダではチップの習慣に慣れなくてはいけません。初めは幾ら支払えば良いか予想がつかず難しかったです。チップを支払わないと分かると、スタッフの対応が面白いくらいコロリッと変わります。また、道にゴミが多い。唾を吐く人が多い。日本人から見ると、とても行儀の悪いことが当たり前に行われていて驚きの連続でした。また、ホームレス、金を要求する人の多さにもびっくり。ひとつひとつのことが日本とは違い、異文化経験の連続でした。世界の人と交流することはこのようなさまざまな国民性を持つ人々と付き合うということなんですね。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、まず場所です。気楽に遊びに行けるような場所が近くに無く勉強にしっかり専念ができました。語学学校でトロントに住んでいた時は、カナダの大都市を経験でき、都会と田舎の両方を見ることができました。多くの国からの留学生が居ましたので、留学制度、国際交流センターなどがしっかりしていて安心して生活できました。試験時には、英語日本語の紙辞書の貸し出しもしていただけます。またカナダは移民がとても多い国なので、自分が外国人であるということで周りから珍しい目で見られたりすることもなく、生活がしやすかったです。悪かった点は特にはありませんが、やはり田舎で良いことがある分、不自由だなと感じることも多々ありました。布団を買いに遠くの街まで行かねばならず、限られた時間の中でしたので大変でした。大学に移った時に、日本の他大学からも語学研修で 30 人程来ており、彼ら語学研修生と私たち協定留学生ではその待遇が全く違うことにとても疑問を持ちました。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必須です。大学だけでなく語学学校でも毎週のようにレポート提出があります。また授業の様子やメールチェックも随時できるようにということでパソコンは持って行って良かったです。また、私は風邪をよくひくのである程度薬を持って行きました。カナダのものはとても強いと聞いていましたので使うのが怖かったですし、いつも飲んでいる薬の方が安心できると思いました。カナダで買う薬の値段は高いと思います。歯医者に行った時に買った痛み止めが 3,000 円近くしました。マスクとカイロは絶対に持って行った方が良いです。カナダでは手に入りにくいからです。カイロのことを知らない人が多いかもしれません。帰国時、空港でラッキーガールになってしまい、荷物を全部調べられ、私自身もセンサーで調べられました。その時カイロを貼っていたので、「何だこれは！」私のまわりがザワザワっと危ない雰囲気になりました。お腹を出して説明しますと物珍しげにカイロに触って、「温かい～」などと言っていました。ちなみに、そのスタッフさん、近くに居た他のスタッフを呼んできて「あなたも触ってみなさいよ～」と勧めていました。それほど珍しいのです。登山用品などの専門店に行くと買えるみたいですが、見つけるのが大変ですので日本から持っていった方が早いです。コンタクトの液体は日本で使っているのと同様の物をカナダでも買えましたので困りませんでした。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は、映画などは字幕なしで理解できるようになりましたし、日常会話も支障ありません。英語を話すのが楽しくてしかたない！！と思うようになりました。それから度胸がつきました。こんなこと、１年前はやらなかったなーと思うようなことも平気でできるようになりました。昔よりももっと積極的になりました。また、自分がいかに日本について知らないかを痛感しました。もっと日本のことを学ぼう、学ばなければという思いを強くしました。日本のことを知らずしてグローバルな視点で世界を見ることはできませんよね。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に興味がある人、しようか迷っている人、すると決めている人。絶対に留学してください。今すぐ TOEFL の勉強を始めてください。協定留学生になるという事は簡単ではありません。学校の代表として行くのですから。しかし、その協定留学生として 1 年間海外で学ぶことによって、自分に自信と誇りが持てます。また視野が広がります。同志社女子大学に入学し、協定留学生として留学させていただいたことは一生の宝物です。留学は楽しいことだけではありません。むしろ辛いことのほうが多いです。正直、どうして私はこんなに大変な道を選んだのだろうと思う日もありました。しかし、それを達成した今、この１年間は何にもかえられないものとなりました。出会った留学生の中で一番頑張りましたし、一番楽しみました。こんなに充実した 1 年間を過ごしたのは私だけだと胸を張って言い切れます。この素晴らしい制度を設けている同志社女子大学、そして支えてくださった国際交流センターの先生方、日本からいろんな情報やエールを届けてくれた友達、同時期、同様に留学し異国の地から励まし合った仲間達、そして、家族（祖父、祖母も含めて）の温かい応援、これら全てに深く感謝しています。多くの皆さんにも私と同様の素晴らし

い経験をしていただき、世界中の友を通しての異文化交流を体験し、彼らと勉学に励み、もちろん語学力も伸ばして欲しいです。就活が遅れるかもしれないという不安はあります。しかし、絶対に後悔しない１年になります。もしあなたが留学したいと思っているなら、まずはじめの一歩を踏み出してみてください。きっと今までとは全く違ったエキサイティングな世界が目の前に広がりますから。

If you can dream it, you can do it.　Walt Disney

※旅立ちからトロントでの生活までのブログです。良かったら参考にしてください。

http://challenge1year.blog.fc2.com/

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

留学を通して、日本の文化が大好きという大勢の外国人に会いました。日本のことを私達日本人にも答えられないようなところまで詳しく勉強し尽くしている彼らを見て、改めて自分の無知さに愕然としました。外に目が行きがちですが、あらためて自国を見つめなおし、将来は日本のこの素敵な文化を世界の多くの方に知っていただけるような仕事をしたいです。また日本のホスピタリティの素晴らしさを伝えることができる女性になります。自分がやりたい、なりたいと強く願っていることはきっと実現する。私はそう信じています。

語学学校時代の友人のお別れ会のあとに、みんなで撮った写真です。
場所はトロントのダウンタウンで、１日中賑わっています

2013 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

My Birthday

ブラジル人とコロンビア人の親友たちと。

大学でのゾンビパーティー

C．A．英語英文学科・４年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

留学に興味を持ち始めたきっかけは、小学生のときから我が家で留学生を受け入れていて、留学生と関わる機会が多くあったことです。ノルウェー、タイ、アメリカ、オーストラリアなどさまざまな国から来た留学生と知り合い、彼らの国の文化に興味を持ちはじめました。また、私の妹も南米に留学しており、その留学体験を聞くうちに私も“留学”ということに惹かれていきました。そして、私自身も留学してもっと多くの人と出会い、広い視野を持ちたいと思うようになりました。しかし、留学制度について調べていくと、教職課程を履修している私は長期留学をすると４年で卒業が難しいということを知りました。４年で卒業できないということに対して、周りから遅れをとるのではないか、金銭面は大丈夫なのか心配に思うことが多くありましたが、家族や先生と相談し協定留学を受けることに決めました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

出願期日ぎりぎりに協定留学への出願を決めたため、TOEFL iBT を受けるための対策が間に合いそうになく、TOEFL-ITP だけ受験しました。出願を決める前に TOEFL ITP を１度受験したことがあったのですが、規定の点数に達していなかったので２度受けました。２回目は出願期日ぎりぎりだったので、すごくプレッシャーに感じました。勉強方法としては TOEFL ITP の対策問題集を買って勉強しました。今、留学を考えている人には TOEFL ITP ではなく、早い時期から TOEFL-iBT を受験することをお勧めします。（もっと留学先の選択肢が広がるし、点数が足りなくて焦るということがなくなるので・・・）

③　留学決定から出発までの準備期間

ビザの申請手続きはエージェントにお願いせず、自分で行いました。ウェブ上で申請をするというものだったのですが、すべて英語で、必要な資料も多かったので困惑したことを覚えています。そのため、学校のスタッフの方に何度もお世話になりました。私はすぐビザがとれたので、ビザのことを心配することはなかったのですが、それでもカナダに着くまでは不安でした。

留学にむけて特に勉強はしませんでしたが、時間のあるときに海外ドラマを見て英語を聞くようにしていました。あとは、少しでもお金をためようとバイトをしていました。

④　現地到着後

留学先と入学日が友達と一緒だったので、同じフライトを予約してトロントへ行きました。トロントではエージェントの方が迎えに来てくれており、車でホストファミリーの家へむかいました。ホストファミリーの家には私のほかにもう 1 人日本人の方が滞在していたので、シャワーの使い方や家でのルールを教えてもらいました。また、不安に思っていたこと、トロントのことを２時間以上話していました。次の日は地下鉄やストリートカーの乗

り方を教えてもらったり、トロントを散策したりしました。エージェントのオリエンテーションでいろいろ情報を教えてもらったのですが、ほとんどの情報はホームメイトの方に教えてもらいました。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学学校は街中にあるので、とても便利でした。特に私は語学学校と同じ建物に入っているカフェをよく利用していました。ダウンタウンに近かったのでよく学校帰りに散策したり、買い物に行ったりしていました。あとは、図書館のカードさえ作れば、本やＤＶＤ、ＣＤが借りられるので時間があるときにはよく図書館を利用しました。

◆授業内容、課題、試験

大学準備クラスが始まる前の２ヶ月は文法などの基本的な英語学習をしていました。いろいろな国籍の友達ができて充実していました。大学準備クラスは、英語の勉強というよりは、大学生活で活用できる勉強方法を中心に学んだように思います。毎週レポートやプレゼンがあったり、難しい記事を読んだり、課題がすごく多かったです。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

私が住んでいた寮は大学の中で一番大きい規模でした。２人部屋で、私の部屋は女子だけが住んでいる階にありました。学食も寮から近かったので便利でした。しかし、私が住んでいた寮は生徒の人数が多い分、パーティーハウスと言われていて、金曜の晩は多くの生徒が部屋でパーティーをしていました。女子だけの階はそんなに騒がしくなることはなかったのでストレスに感じることはありませんでした。ルームメイトとは生活スタイル（寝る時間や起きる時間、勉強に対する姿勢）が似ていたので特に気を使うこともなく、過ごしやすかったです。あと、ルームメイトと住み始めるときに簡単なルールを決めていたので、何事もトラブルがなく生活ができたのではないかと思います。

◆履修科目

最初は５クラス履修していて、最初の１、２週間で５クラス履修するのは大変だとおもったので、興味のある３クラスだけ履修することにしました。履修クラスの変更期間があるので、何度か授業に行ってみて何を履修するか選択することをおすすめします。

・ANTH 1011 Introduction to Anthropology

もともと文化人類学の授業を履修してみたかったので、興味のある内容、科目の Anthropology を履修しました。Anthropology の入門コースだったので、幅広いトピックを学習しました。このコースは二回の中間テストと期末テストがありました。テストはすべて選択問題だったのできちんと勉強さえしていれば簡単だと思います。授業内容自体はそんなに複雑な授業ではないのですが、初めて見た単語や専門用語を覚えるのに苦労しました。

・CANA 2001 Canada and the Modern Age

せっかくカナダに留学したので、カナダのことを知りたいなと思いこの科目を履修しましたが、この科目に一番悩まされました。週２回授業があり、そのうちの１回が講義、もう１回がチュートリアルというディスカッションやプレゼンテーションがある少人数クラスでした。読み物の量が多いうえに、カナダの基本知識がないため、まったくキーポイントになる内容がわからないということがしばしばありました。また、その読み物の要約と自分の意見を書くと言うレポートのようなものがありました。プレゼンテーションもあって、きつかったです。

・ENGL 1111 Literature, the Arts and Humanities

このクラスは文学作品を歴史、哲学、芸術、音楽の観点にわけて学習すると言うものでした。レポートを２つと期末テストがありました。文学作品について深く勉強すると言うよりは、クラスで学んだキーワードや考えを元に、自分の意見や価値観を広げるというものだったように思います。先生もやさしい方で、楽しく学習できました。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

MOSAIC と Astronomy の団体に所属していました。MOSAIC は国際団体サークルで、 交流の場を設けたり、いろいろな国の文化を知ってもらう活動をしたりしていました。もうひとつの Astronomy は天体観測をするサークルでした。私のメンター（同女でいうビックシスターの留学生版のようなもの）が Astronomy サークルに所属していたので誘ってもらい、参加するようになりました。定期的な集まりのようなものはなく、時々集まって星を眺めるというゆるゆるしたものでした。ＭＴＡが望遠鏡の設備があり、それを使って星を見るという機会もありました。大学が田舎にある分、ものすごくきれいに星の観察ができました。

⑧現地での住まい

トロントにいたときはホームステイでした。昼ごはんはサンドイッチを作ってくれていました。夜ご飯はみんなと一緒に食べられないときは私の分を残してくれていました。洗濯はホストマザーに頼んでやってもらうという感じで、特にこれと言って不便に思うことはありませんでした。しいて言えば、語学学校まで地下鉄とストリートカーを乗り継いで約 50 分と時間がかかったことくらいです。しかし、交通の便はよかったのでそこまでストレスに思うことはありませんでした。寮は、語学学校の先生を通じて知り合った方（同じ語学学校に通っていて MTA に在学している日本人の生徒）に寮の雰囲気を聞き、決定しました。特に重要視したのはルームメイトの有り無しということと学食までの距離でした。

⑨　長期休暇の過ごし方

３連休が私の１番長かった休暇でした。トロントにいたときの３連休はオタワ、モントリオールに行きました。大学に移ってからは友達の帰省についていったり、交換留学生の友達とモントリオールにいったりしました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

ＳＰＩの問題集だけ持って行きましたが、途中までしかやりませんでした。あとはリクル

ートサイトをときどきチェックするくらいでこれといったことはしませんでした。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学生活が充実していたので、1 つに決められません。もちろん旅行も楽しかったですが、私が楽しいと感じたことは日々の生活で友達と話をしたことです。寮には多くの友達が住んでいたので、ほとんどの時間を友達やルームメイトと過ごしていました。ふらっと友達が私の部屋にやってきて長話をしたり、食堂でみんなとわいわいしたり、部屋でパーティーしたり、たわいのない時間が楽しかったです。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中でつらかったことは、CANA 2001 の毎週の課題であったレポートです。まず、読み物の量が膨大なためどこが筆者のキーポイントか分からなかったこと、カナダの基本的な知識がなかったこと（政治や歴史など）があり、何を書いていいのか分からないということが多々ありました。書く内容を理解したあとも私には苦痛でした。私は日本にいるときからライティングが苦手で、単語力も文法力もなく、書きたい内容が書けず、文章にまとまりがないことが何度も起こりました。そのたびに友達に助けてもらったり、ルームメイトにエッセイをチェックしてもらったりしました。今思うと、この経験のおかげでカナダの知識やエッセイの書き方を学習したように思います。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私が驚いたことは大人数の講義でも、発言する生徒が多いと言うことです。あとは、日本より教授との距離が近いことです。そのため、少しでも分からないところがあると教授に質問しに行きました。また、臨機応変に対応してくれる教授が多いので、不安なことや何か必要なことがあれば話しにいくといいと思います。私は実際に中間テストの時間の延長をお願いしたことがあります。もちろん、授業後に質問もよくしていました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

日本語の授業が開講されているため、日本に興味のある生徒が多いこと。あと、小規模な大学なのでみんなフレンドリーなところがよかったと思います。

悪かった点としては、ほかの大学から 30 人くらいの団体で日本人の留学生が来るので、日本語はよく聞こえてくるし、しゃべってしまうことです。そのため英語で話す機会が減ることもありました。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンとスマートフォンはよく使いました。パソコンはレポートやパワーポイントを作るのに使いました。トロントでは簡易携帯（電話とメールだけ）のものを使っていました。カナダでは wi-fi が普及しているのでスマートフォンも持ち歩いてインターネットはカフェ

や学校で使っていました。大学はスマートフォンのアプリを使って友達と連絡をとっていました。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力が向上したかは自分ではまだよく分かりませんが、スピーキング力とリスニング力はあがったと思います。あと、リーディングとライティングに対する拒否反応が薄れました。留学前と後で変わったなと思うことは積極性です。以前は人見知りで、受身なことが多かったのですが、留学生活を通じてさまざまな方と関わることができ、人と話をするのが好きになりました。また、自分から行動しないといけないことも多かったので、積極性が身についたのではないかと思います。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私から言えることは、ライティングが苦手な人はライティングの練習をすること！！！すぐに上達することではないと思うので、毎日少しずつ取り組むといいと思います。あと、カナダに関する授業を履修したいなと思っている人がいたら、あらかじめカナダの歴史を知っておくといいかもしれません。

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

今、就職活動中でまだこれになりたい！！という夢はないのですが、留学生活が生きるよう、就職活動に取り組んで生きたいと思います。また、日本でも語学力の向上に取り組めると思うので、自分の苦手な文法、単語力、ライティング、リーディングを中心に引き続き勉強したいと思っています。

語学学校のイベントでハイパークという公園にピクニックへ行った時の写真です。この時のクラスは雰囲気がよく、クラスメイト全員が仲良しで学校終わりによくいろんなところへ遊びに行きました。

語学学校の友達です。一緒にナイアガラの滝へ行きました。初めてみる滝は壮大で感動しました。夏ごろに行ったので、滝の近くまでボートを使っていくことができました。近くで見るナイアガラの滝は水しぶきがすごくてびしょびしょになりましたが、とてもいい思い出になりました。

ルームメイトとルームメイトを通じて仲良くなった友達です。よく部屋に遊びに来て話をしていました。同じ授業をとっている子もいたので、何回も励ましてもらいました。みんながいなかったら留学生活が全く違っていたと思います。

C．N．英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

私は自分が家族や友達がいる住み慣れた日本から離れ、自分自身の力でどれだけやれるかということを試してみたい、という挑戦心から留学することを決意しました。私は日本にいる間は実家で家族と共に暮らしてきました。そのため家のことやいろんな面で家族に頼ってばかりだということを自覚しつつもどうしても頼ってしまっていました。何かの決断をするときも人の意見を聞き自分の意見に自信を持てずにいた自分に少し嫌気がさしていました。何かきっかけがなければ私は変われないと思い留学することを決意しました。自分の力を試すという点で親元を離れ、自分の好きな英語を話す国での留学にあこがれを抱いていました。私は中学生の時から英語の勉強が好きで高校生時代にすでに留学には興味はあったのですが機会がなかったので大学に入ってから協定留学について知り、絶対に大学生の間に留学をしたいと思っていました。留学したいという気持ちは大学入学当初からあったので協定留学説明会に行き、先輩の留学体験談を聞き、より留学したいという気持ちが高まりました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

語彙は増やした方がいいと思っていたので単語は毎日決めた数だけ覚えるように取り組んでいました。それでも留学生活の中で自分の語彙力の無さを思い知ったので、英語を勉強する中で、わからなかったらその部分をとばすのではなくて、文脈から推測するだけでもいいのである程度単語の雰囲気をつかめるように努力をしたりして語彙を増やすことを意識するといいと思います。協定留学にはＴＯＥＦＬの点数が必要だったのでＴＯＥＦＬ専用の参考書を買って勉強していました。

③　留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、ＴＯＥＦＬのリーディングを見直したり単語を覚えたりしていました。あと、留学先で日本のことについて聞かれることもあるだろうし、せっかくの文化交流の場なので私も日本のことを教えてあげたいと思ったので、少しの間でしたが日本の象徴的なものを写真に撮ったり、京都を一人で廻ったりして、日本のことについて説明をする準備をしたりしていました。ビザ申請手続は自らオンラインでしました。申請に必要な資料をまず全て用意してから取り掛かるとスムーズに済ませることができるので早めに必要書類を準備しておくといいです。ビザはなかなか許可が降りなかったり、ビザオフィスと連絡がうまく取れなかったりとトラブルが発生する可能性もあるので余裕をもって早めに申請することをお勧めします。

④　現地到着後

空港からホームステイ先までの移動手段として出迎えサービスを申し込んでいたので、現地サポート会社の方がステイ先まで車で連れて行ってくれました。空港からステイ先まで

は４０分ぐらいでした。私は土曜日の夜に到着し、ステイ先に着いた時には時差ボケで気分が悪くなりダウンしてしまっていました。翌日の日曜日はホストファザーが語学学校ＰＬＩの場所まで案内してくれました。ＰＬＩはビルの中に入っていてわかりづらいので学校が始まるまでに場所が確認できてよかったです。オリエンテーションでは、カナダでの暮らし方やホームステイ先での過ごし方など丁寧に説明があり、そのあとに行われたプレイスメントテストと面接によってクラスが決まりました。私はその翌日あたりにケータイの契約をしに行きました。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

ＰＬＩはダウンタウンのすぐ近くにあるのでショッピングなどに行きやすかったです。ＰＬＩが入っているビルの一階がカナダで安くてどこにでもあるカフェ、Ｔｉｍ　Ｈｏｒｔｏｎがあるので利用する人が多かったです。

私がはじめに受けたクラスは１３人ぐらいでした。

◆授業内容、課題、試験

Ｍｏｕｎｔ　Ａｌｌｉｓｏｎ大学に行くために必須である５月スタートのＵＦＣコースを語学学校でとらなければならなかったのですが、ＵＦＣコースはアカデミックなプレゼンテーションやエッセイなどの仕方を実際に授業でやりながら学ぶコースなので、あまりなじみのないことをする前に、私は準備として３月からの基礎のコースをとって英語を使うことにまず慣れました。ＵＦＣコースの準備として３月から語学学校に行ってよかったと思っています。３月から５月までの基礎のクラスではグループやペアワークがあり、社会のことやいろんな国の出来事などを様々な国から来た人たちと意見交換したり考え方を知ったりすることができ面白かったです。基礎のクラスにいる間の課題は問題集を解いてくることなどで、ＵＦＣクラスになってからは、毎回リーディング問題を読んでくることや週に一回エッセイを書く授業がありました。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

語学学校があった都会のトロントと比べて、大学がある田舎のサックビルは対照的で両方の環境を体験できてよかったと思います。サックビルは本当に何もなくてショッピングなどはできませんが、勉強する環境としてはすごくいい場所だと思います。学生がほとんどなので、町と学校の結びつきがあり、イベントごとでは町と大学が一緒になって楽しむといった雰囲気が印象的でした。

大学の図書館は夜の１１：００まで、スチューデントセンターと呼ばれる勉強するスペースがある建物は朝の１：３０ぐらいまで開いているので部屋では勉強に集中できない私にとってはよかったです。何回かインターナショナルスチューデントのために勉強の仕方などを説明してくれる機会があったり、図書館にはエッセイを見てアドバイスをしてくれるライティングセンターと呼ばれる部屋もあり、サポート体制はしっかりしていたと思いま

す。

◆履修科目

・Literature, the arts and humanities

この授業は予習として毎回違う文学作品を読んできて、授業中にその内容を
教授とともに見ていき、どういった観点でこの作品は書かれているのだろうといった文学の読み方、読んでなにを感じたかなどを授業中に隣の人と意見交換したあとに、クラス全体で感想や考え方を数人が発表し、クラスの最後に自分の意見を書いた紙を毎授業提出していました。このクラスには答えがなく、他の人の意見を聞くことでそんな見方もあるのかと発見があり自分の感性もみがくことができ楽しかったです。教授も優しく楽しい方でした。

・Introduction to sociology

私は社会学に興味があったので、この授業をとりました。教授の話し方はわかりやすく、この授業では社会問題について社会学者としての問題の見方や解決策を考えるのですが、生徒が授業中に発言したこともわかりやすくそのたびにまとめて話してくれるのでとても理解しやすかったです。社会問題について考え意見交換することは楽しかったです。ただカナダのことを軸に話がすすんでいくので、カナダについての知識があまりない点で、はじめは焦ったりもしましたが教授が優しい方なのでわからないことがあれば質問しにいけばいいので問題ないです。

・The uses and abuses of history

この授業は歴史について学ぶというよりも、歴史とは何か、歴史とはどのように伝えられているのか、歴史を学ぶ上での問題点などについて考える授業です。この授業の教授は長く日本に住んでいたということもあり、アジアの歴史にすごく詳しいですし、日本人である私にとても優しく接してくれましたし、どんどん質問に来なさいといった人でした。テストの内容は、授業で習った定義などについて説明し、それと関連づく歴史上の出来事を自分で見つけだし、例を書くといった内容で、授業の内容をしっかりと理解したうえでそれに見合う例を自分の歴史に関する知識から見つけ出さなければならないので、難しかったです。

・Introductory Spanish Ⅰ

スペイン語は世界で二番目に多く話されている言語だということを知ったのと、友達がスペイン語をはなしており、その音が面白かったので、スペイン語の授業をとろうと決めました。カナダの学生にとっても第二言語であるということもあり、他の授業と比べるとカナダの学生と同等のレベルで授業に挑めました。教授は明るく、静かなクラスは嫌だ、絶対クラスの子と話しなさいという人だったので毎回授業ではクラスの子とスペイン語で話す機会がありました。週に一回実践のクラスがあり、リスニングやスピーキングをメインにする授業がありました。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

運動として社交ダンスクラブや自由に参加できるズンバといったダンスクラブに何回か行き、楽しかったのですが勉強が忙しくなり、自分のいけるときにジムに行って運動をしていました。
上級生がインターナショナルスチューデントのお世話をしてくれるメンターシッププログラムに参加して、わたしのペアの上級生と仲良くなりました。休みの日にはペアの子が住んでいるシェアハウスに遊びに行ってごはんを一緒に食べたり、カフェで話をしたりしていました。

⑧　現地での住まい

私のホストファミリーは栄養バランスのとれた食事をだしてくれました。お昼ご飯にはお弁当を持たせてくれて、朝ご飯はシリアルとパンを食べていました。
カナダのお風呂は給水式なのでなるべく早くあがるようにしていました。
家には地下と一階と二つお風呂があり、私はずっと地下のお風呂に夜入っていたのですが、あるとき朝に入ると、一階と地下のお風呂と同じタイミングに入ると片方が冷水になってしまうのと怒られてしまったので、お風呂や、他に気になることがあればはじめの段階で聞いておいた方がいいです。
わたしの住んでいた寮は食堂から離れたところにある寮だったので、朝ご飯を食べに行くのも面倒臭くなってしまいましたし、冬は外が寒くて移動がつらかったです。寮によって、にぎやかな寮や静かな寮、など特徴が違っているので早めに調べておいて、希望の寮に入れるように、早めに申し込むことをお勧めします。

⑨　長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでしたが、語学学校に行っている間の休みの日に旅行に行きました。カナダの東に位置するオタワとモントリオールに行ってフランス語圏のカナダも経験し、ヨーロッパのようなモントリオールはとてもうつくしかったです。トロントの近くにあるニューヨークにもいきましたし、夏に行くナイアガラの滝は迫力があり、船で滝のすぐそばまで近づいたときはアトラクションに乗っているような気持ちでした。
大学が終わったあとはこの機会にと思いヨーロッパへ一人旅をしました。この留学を通して自分でチャレンジし行動することに自信がついたので、ひとり旅は現地のひとと交流することもでき、すごく楽しめました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中の就職活動は、新聞は絶対読むべきだと留学する前に言われていたので、なるべく読むようには心がけていました。ほかは就活サイトに登録しておく程度でした。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友達と映画を見に行ったり、家に遊びに行ったり、出かけたりしたことです。日常のやり取りで異文化を感じたりもしましたし、互いの文化を教えあうことが楽しかったです。最

も思い出に残っていることは、私が留学する以前に思い描いていた思う存分留学先での生活に馴染むということができておらず、さらにそのことを誰にも相談できずに一人で抱え込んでいたときに、思い切ってホストマザーに相談すると、真剣に話をきいてくれて、自分の過去の話などと照らし合わせながら私を勇気づけてくれたことです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学をする前に、頑張るぞととても意気込んで日本をでてきた分、思い通りにいっていないと、自分で勝手にプレッシャーを感じていました。

ホストファミリーとの生活は楽しかったのですが、他人との生活ということで気を使わなくていいよと言われていてもどうしても気を使ってしまうことがつらかったです。

つらかったことも楽しかったこともありましたが、すべてを通して自分について知ることができて良かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ごはんを食べる時間が日本と少し違っていた気がしました。お昼ご飯を食べる時間が少し遅く、夜ご飯を食べる時間が少し早かったです。

カナダは建物の中は暖かいので、冬でも室内ではセーターを着て暖かそうな人もいれば、半袖の人もいて季節感の無さが面白かったです。

カナダではみんなが休日をめいっぱい楽しんでいるところに日本との違いを感じました。日本ではそんなこと感じたこともなかったのですが、カナダでは金曜日から休日を楽しむぞというムードがすごく伝わってきました。

助け合いの精神があるのか、ドアは次の人が持つまでちゃんと持つところや、ホームレスの人にお金や食料をあげている光景をよく目にしました。

カナダは本当に多国籍国家だなと思いました。Greek town, Little Italy, Korean town, Indian street などたくさんあり、いろんな国のイベントがあったりしました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学のあるサックビルは本当に田舎で周りには何もありません。勉強に集中するのにすごく適した場所だと思いました。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必要だと思います。エッセイ課題が多いですし、大学のパソコンも使えるのですが、満席のこともあるので、自分のパソコンはあった方が良いと思います。なるべく小さい方が持ち運びに楽でいいでしょう。日本食は私にとっては必要でした。私ははじめのころは別に日本食がなくても生きてはいけるだろうし必要ないと思っていたのですが、食堂のメニューはローテーションだったので飽きてきてしまい、サックビルのスーパーには日本食がほとんどないので、我慢しきれず親に日本のインスタントみそ汁やお菓子などを送ってもらいました。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学をしてわかったことは、日常生活程度の英語なら大学生であればだれでも話せるということです。もちろんネイティブと同じように話すのは難しく、自分の話すスピードはゆっくりで、文章を伝えるのに時間がかかったりして、焦ってしまったり、落ち込んでしまったりもします。ですがそんな状況下でも母国語じゃないのだから当たり前だと開き直ることさえできれば、自分のペースで話し、わからない単語があっても、自分の持っている語彙で工夫して説明したり、身振り手振りで説明したりしてその状況にまず慣れることで、英語を話すことにも慣れていくことができると思います。留学前までは私は英語を話すことに自信がなかったのですが、留学をしてこのことに気が付き、英語を話せるようになるには、英語力を気にするより、話したい、伝えたいという気持ちを強く持つことが大事だと思うようになり、英語を話すことを楽しめるようになりました。語学力は全体的に向上したと思います。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学をしたいと考えている皆さんには、そう考える理由があると思います。その思いを強く持ち続けてください。強い思いがあれば何でも挑戦できます。何事についてもそうですが、まずは何でもいいので目標を持ち、それに向かって突き進むのみです！

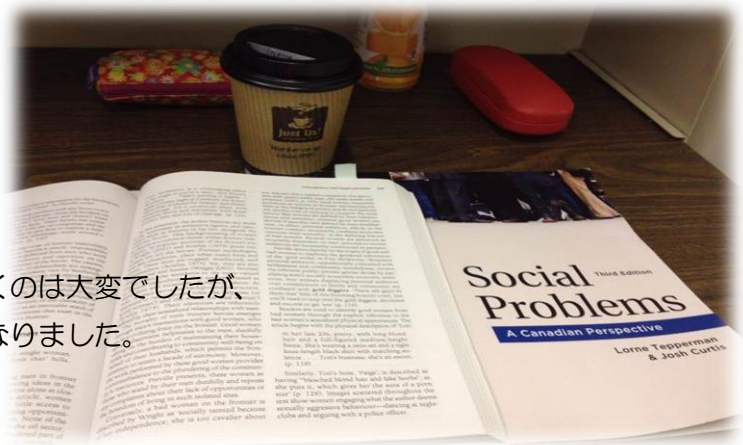
Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

わたしはこの留学を通してもっと日本のことをたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。そして私もいろんな国について知りたいと思うようになりました。将来様々な国へ訪れ文化交流ができればいいなと思っています。

2013 年度（春ｽﾀｰﾄ）
Mount Allison University

コロンビア人の友達と友達の彼氏とその親戚たちと３泊４日でコテージに遊びに行きました。その時にスペイン語を教えてもらいスペイン語が好きになりました。休日にコテージに遊びに行くのはカナダ人にはよくあることだそうです。そこで、車や電気製品などのテクノロジーは一切使わず馬に乗りその土地で獲れた農作物を食べて生活するといった民族の人たちにも出会いました。カナダの文化も南アメリカの文化も同時に体験した良い思い出です。



カナダ人の学生についていくのは大変でしたが、
社会学をとってみて好きになりました。